

## Neuroform Atlas を Y 字に重ねて塞栓した内頸動脈瘤の一例

A case of coil embolization with a Y-configured Neuroform Atlas stent for internal carotid artery aneurysm

赤路 和則<sup>1)</sup> 富尾 亮介<sup>1)</sup> 谷崎 義生<sup>1)</sup> 志藤 里香<sup>1)</sup> 木村 浩晃<sup>2)</sup> 美原 盤<sup>2)</sup>

植杉 剛<sup>3)</sup> 神澤 孝夫<sup>3)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経内科

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳卒中部門

[症例]45 歳、女性。未破裂右傍鞍部内頸動脈瘤。最大径 15.8mm、neck 径 5.6mm。右眼外側視野障害を認めた。Stent-assist technique で瘤内塞栓術を予定した。右内頸動脈遠位径 3.8mm、近位径 4.3mm であった。8Fr Optimo guiding catheter を右内頸動脈へ挿入した。Excelsior SL-10 45 度を右中大脳動脈へ誘導し、Neuroform Atlas stent 4.5mm 30mm を右中大脳動脈から内頸動脈まで展開したところ、予定よりも遠位での留置となり、stent 近位側が瘤内へ脱落した。stent をそのまま留置し、double catheter technique で、瘤内塞栓を行い、neck remnant で終了した。術前から投与していた aspirin、clopidogrel の抗血小板剤 2 剤を継続とした。追跡 DSA 上、瘤再発を認め、増大してきたため、1 年後、再び stent-assist technique で瘤内塞栓術を予定した。8Fr Optimo guiding catheter を右内頸動脈へ挿入した。前回留置した Neuroform Atlas stent の strut を通して、Chikai14 を用いて Excelsior XT-17 straight を右中大脳動脈へ誘導し、Y 字に重ねてもう一枚の Neuroform Atlas stent 4.5mm 21mm を右内頸動脈に留置した。4mm 前後径の内頸動脈でも問題なく展開できた。Jailing で留置していた microcatheter から瘤内塞栓を行い、neck remnant で終了した。術後、特に問題なく退院し、右眼外側視野障害の悪化を認めていない。〈BR〉[結語]内頸動脈瘤塞栓術において、Neuroform Atlas stent 近位側が瘤内へ脱落した場合、Y 字に重ねてもう一枚の Neuroform Atlas stent を内頸動脈に留置することも選択肢の一つと考えられた。